

事故事例に学ぶ

10

交差点での右折事故



事故の概要

発生状況

日 時：平成12年10月某日 午前10時15分
天 候：曇
発生場所：海老名市内

事故の当事者

運転者A（普通貨物車4t）：31歳男性
運転者B（自動二輪車400cc）：25歳男性

被害状況

A：車両左前部フェンダー凹損
B：重体（全身打撲、頭部損傷）

事故状況

運転者Aは普通貨物車を運転し、厚木市内から自動車部品を積み山梨県甲府市内の配送先に向かう途中、海老名市内の信号機のある交差点を相模原方向に右折しようとした。その際Aは先行右折車（普通乗用車）と対面信号にばかり注意が向き、Bの運転する対向二輪車を見落とし、先行右折車に続いてそのまま右折、対向直進してきたBと衝突した。

Bは転倒し約40メートル滑走、道路左側歩道上に設けられたコンクリート電柱に激突し全身打撲、頭部損傷等による重体となった。

事故現場の環境

現場付近は、住宅が点在した場所で海老名市の幹線道路となっている。道路はアスファルト

舗装、片側2車線の両側に歩道が設けられた信号機が設置されている十字路交差点である。

交差道路は片側1車線の両側に歩道がある巾員12メートル道路で、歩行者は少ないが交通量の多い交差点であった。

事故の背景と防止策

事故の背景

Aは横浜市内の物流会社に勤め運転歴は約12年、普段は主に横浜・川崎市内の配送業務を行っていた。

事故当日、勤め先の上司から、他のドライバーが休暇を取ったため、厚木市内の荷主先から自動車部品を積み山梨の甲府まで、との指示を受けた。Aにとってその仕事は初めてであり、また運行経路の地理も不案内で若干の不安があった。

厚木市内の荷主先で自動車部品を積み、海老名市内の幹線道路に入り、事故現場の一つ手前の交差点で赤信号のため停止した。

Aはその際、地理不案内であったところから、この先の走行経路を確認しようと地図を見ているとき、後続車から警笛を鳴らされた。前方を見ると対面信号が青に変わっていたので、慌てて発進した。

事故現場の交差点まで進行して右折しようとしたが、先ほどの後続車からの警笛は発進を促がされたものと思い込んでいたので、早く右折しなければいけないと判断し、信号と先行右折

車に気をとられた状態で、右折を開始、直前で対向直進の二輪車を発見、ブレーキをかけたが間に合わず衝突した。

事故防止策

交差点は車や二輪車、自転車などが複雑に絡み合う場所であり、そこには思わぬ落とし穴が潜んでいます。

Aの日常業務は横浜・川崎市内の配送が主であり、当日は初めての仕事で、更に運行経路は地理不案内で若干の不安を抱いていました。

今回の事例のような場合、事業所の運行管理者は、本人に業務内容、運行経路、道路状況を具体的に指示する必要があったと思われます。

一方、Aも事前に運行経路、道路状況等について確認しておけば、気持も動揺せず運転にゆとりが生じ、交差点で大切な周囲への目配りができ、性急に右折することもなく事故は防げたものと考えられます。

～安全指導～

交差点の右折は、「自車が信号を守っていれば安全だ」と思わず、対向車両の確認は勿論のこと、周囲の交通状況を確実に把握して、危険だと思われる車両等があれば道を譲るくらいのゆとりと慎重さが欲しいものです。

対向車線の安全が確認できるまで右折しない。

交差点での右折事故の多くは、ドライバーの無理な右折によるもので、特に直進バイクと衝突する事故が少なくありません。対向車線を直進してくるバイクを認めていながら、バイクが交差点に接近する前に右折できると思込み、そのまま右折進行したというケースです。

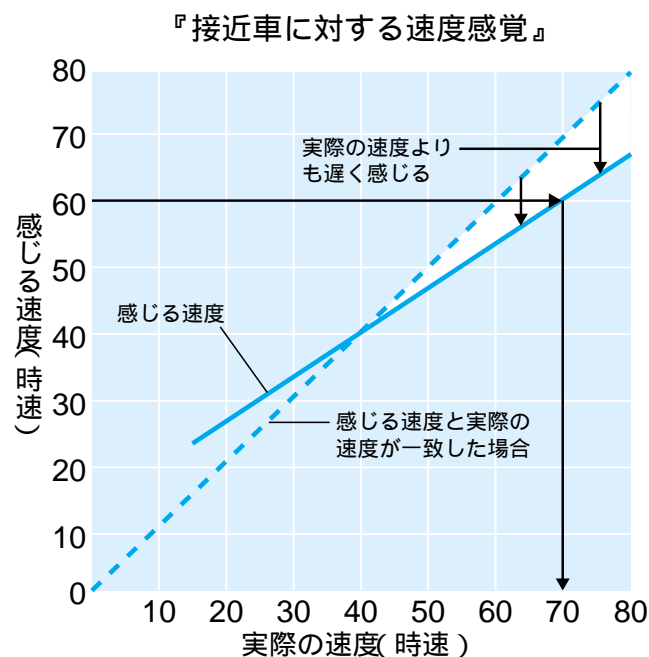
これは、バイクは車体が小さいため、実際の距離よりも遠いと錯覚したり、速度も実際よりも遅く感じたりするためです。この錯覚による事故を避けるためには、バイクを通過させてから右折する様な運転を心掛けたいものです。

対向車の速度が遅く感じる。

対向から進行してくる車の速度そのものがなかなか正確に把握できないことがあります。

下図は、対向接近車の速度感覚を調べたものですが、40km/hを境に、実際の速度（客観速度）と感じる速度（主観速度）の差が広がり、速度が増すほど相手の速度は客観速度より遅く感じているというデータです。

この図の様に、実際には対向車が70km/hで接近してきても60km/h程度にしか感じられないのですから、感覚だけで「今なら右折できる。」と思っても、実際の速度を良く判断して、ギリギリの右折は中止すべきです。



『交通場面における心の科学』
(財)都市交通問題調査会発行より

右折には意外と時間がかかる。

一般的に、ドライバーは右折する時間を実際よりも短く感じているということがあります。

右折にどれくらいの時間がかかるか調べたテストによると、車種、積載物にもよりますが、片側2車線道路を右折するのに速い人で3.1秒、遅い人で5.9秒の時間がかかっています。

時速50キロで走行する対向車がいた場合、6秒で約83mも接近することを考えると、右折時間を意識することも重要です。